

暗黒の
海の唄

R18
Adult Only



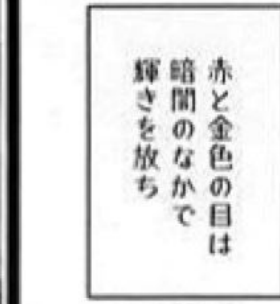
深い深い海のなか

「海の悪魔」と呼ばれ
恐れられている者が
いました






漆黒に濡れた髪は
海の色に溶け




赤と金色の目は
暗闇のなかで
輝きを放ち



黒のまだら模様が
ついた紫色の足は
自由自在に動き



右肩には
サタンと呼ばれる
魔王が鎮座
していました



彼の名は
「アスラン・ベルゼビュート二世」



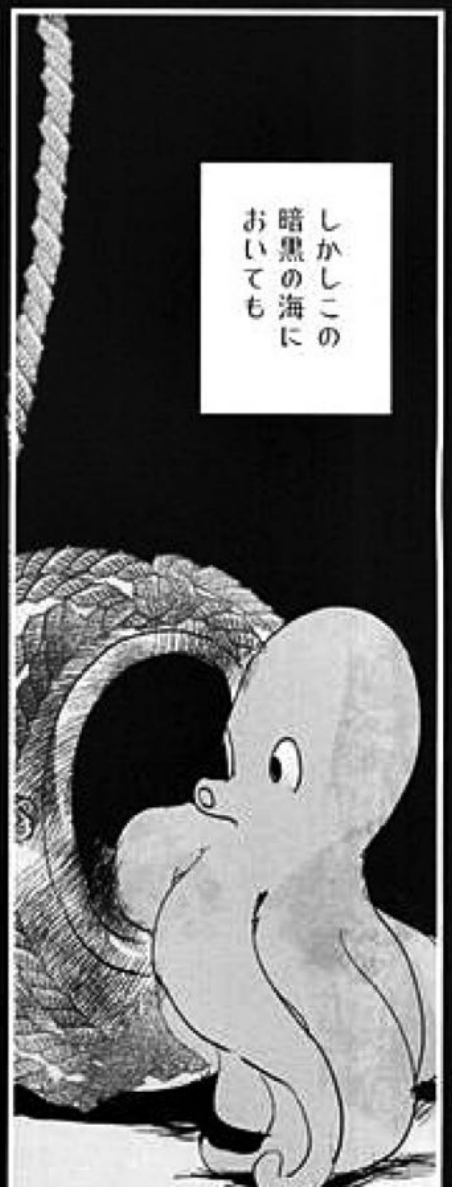
同胞達と共に
安穩の時を
過ごしていました




たった
一晩のうちに




光の民達の手が
忍び寄って
きていました




しかしこの
暗黒の海に
おいても



アスランは
孤独の身に
なってしまった
のです



頭上には
同胞達を乗せた
船の影



彼の心は恐怖に
支配されました

「ここには
いけない」

彼は船とは
反対方向に
逃げ出しました


しかし
波の流れに
逆らった結果

途中
ごつごつとした
岩にあたり

なんと
足を一本
失って
しまったのです

さらには
激しい潮に
飲まれ……





それが
もう一人の
「彼」との
出会いでした



男が
アスランの足を
心配していた
ことが分かった
ほっと胸を
なでおろし
ました



目が覚めた瞬間

恐れていた光の民が
目の前にいたことに
アスランは
非常に焦りましたが



俺の名前は
神谷
ここから遠い場所に
住んでいたんだけど
今は放浪中の身でね

この国の
風景が
気に入ってさ
しばらく
近くの宿に
滞在する
予定なんだ

我が名は
アスランⅡ
ベルゼビュートⅡ世
大いなる暗黒の海に
魔王サタンと共に
住んでいる悪魔だ



光の民の中にも
我を氣にかけて
くれる存在が
いるとは…

それからと
いうもの



地上は魔力を
消耗する…
長くは居られん
我は漆黒の世界に
再び舞い戻るぞ

アスラン！
明日も
また君に
会えるかな？

聞耽る
刻ならば
我は此処に
また現われよう



神谷は
今まで旅をした
国のお話を
聞かせました



アスランは
得意としている
詠唱を披露し

空が
黒一色に
染まる頃

浜辺で
落ち合う日々が
始まりました



いつのまにか

毎晩会うことは
二人の習慣の
ひとつと
なっていました

もうすぐ
夜が明けて
しまうな…

本当だ
ごめんね
アスラン

地上に
長くいたから
体力
使っただろ？

そんなことは
気にするな

ちゅっ

カミヤ

いつもより
長い時を
過ごせて…

嬉しかった



明日
闇が迫る刻に
また相見えよう

サア...



今のは
我と言霊を
長きにわたって
交わしてくれた
褒美だ



.....



サタンよ





カミヤ

汝の長き
旅路の道に
我も付き添おう

アスラン?

明日には
この地を
離れるの
だろうか?



我は
この足を
捨てることを
決めた



そうすれば
カミヤのそばに
ずっといられる…



サタンの力を借りれば
海の民としての体を
失う代わりに

人間の体を
手に入れ
地上で生きる
ことができる



君の美しい足が
失われるなんて…

そんな悲しいこと
あつてはならないよ



待ってくれ
アスラン



カミヤ!
自身の発言が
何を意味するのか
理解しているのか!?



…そうだ

むしろ…
サタンの力で
俺を海の住人に
することは
できないのかな?



…理由は話せば
長くなるけど

アスラン



何故だ

何故カミヤは
我の為に
そこまで
心を砕く事が
できる?

好き好んで
人間であることを
捨てようとするなど…



暗黒の世界に
住むという事は…

光の民達の手
に怯え続ける事
に他ならない

俺の話を聞いてくれる？

遥か東方にある国

そこで彼は

古くからの友人と

ケーキ好きのウェイター

元気いっぱいウェイトレス

三人と共にお店を営んでいたそうです

悲しんでいるひと苦しんでいるひと


そういう人にこそ俺が思う幸せを届けたい

店の中には常に笑顔が溢れる様になりました

反面

彼のなかには


物足りなさが渦巻く様になりました




それは
アイドル活動を
始めた後も
同じでした

俺が今いる
この場所は
大きな幸せで
満たされている

それは
嬉しいこと
だけれど




もしかしたら
遥か向こうの
土地には



一人では
どうしようもない
くらいの困難に
立ち向かって
いる人がある

押し潰されそう
な心持ちのまま
明日を迎える
人がいる
かもしれない



そんな人に出会って
幸せを届ける
ことができるのなら...

どんなに
遠い場所
だっていい

そこへ
足を運びたい

彼の
旅に立ちたい
思いは
日を重なる
ことに
強まり

ついには

国を出る決意を
固めてしまったのです



本当に



今いる場所を
捨ててまで
行くつもり
なんですか？

…ええ
決めたんです
プロデューサーさん

途中
どんなに険しい道が
待っているとしても

ここに来るまで
数え切れないくらい
迷ったけれど…

歩いてきた道のりは
全て無駄じゃ
なかったんだって
今は思えるんだ

こうして
アスランに
出会えたから

…それに

こんなに
ひとつの場所に
留まりたいと
思えたのが

初めてだよ

ずっと一緒に
いたい気持ちは
俺も同じだよ





さあ共に
暗黒の海に
その身を
委ねん

神谷は
人としての
体を失い

代わりに
エメラルド色の
鱗を持つ人魚と
しての体を
授かりました

我とサタンの
住処には
間もなく
到着するぞ



此処にまた
来るとは...

ゲッ
ツ



あれは...

光の民!



結界だ?!

なっ...!

ザッ



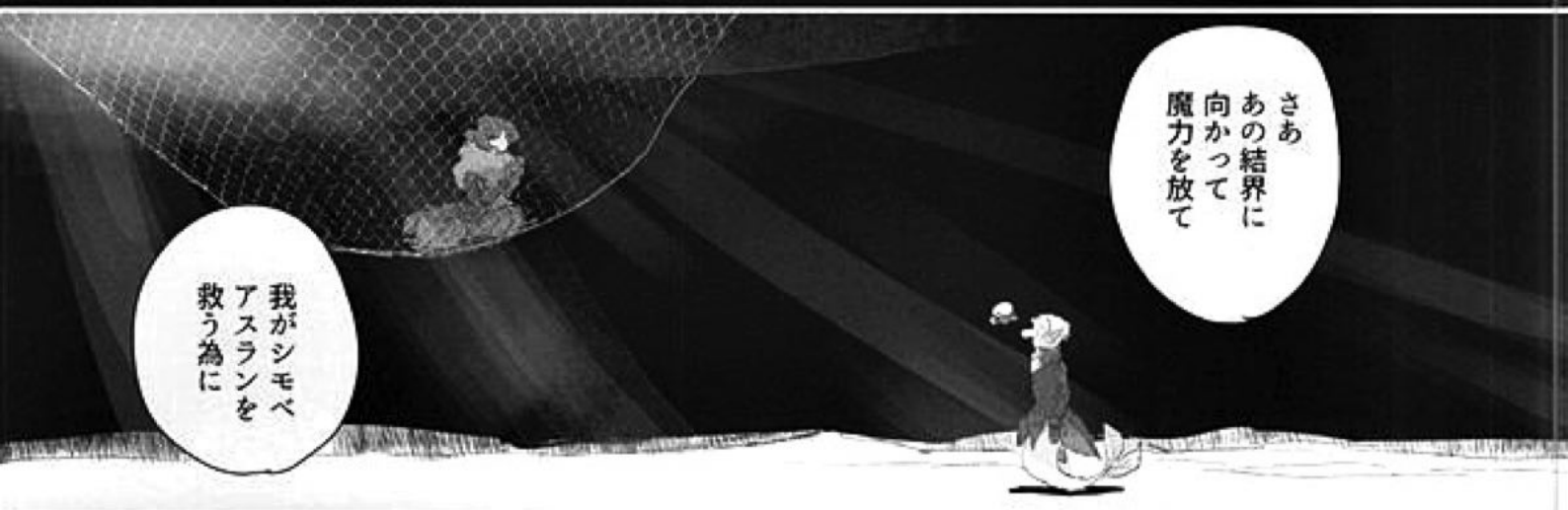
!



アスラメ...



このままでは
地上に...っ





潮が生まれ

波は渦巻き

ヴェバルの
強い思いによって



船は揺らげ



礼を言うぞ
ヴェバル

サタンが
与えてくれた
力のおかげだよ



結界は
その効力を
失いました

ヴェバルは
私の

心を

体を

尊重してくれた

これほどまでに
喜ばしいことが
あるだろうか

今度は我が
与えて
くれたものを
返す番だ

ヴェバルよ
汝と…

深く
交じり合いたい





アスラン…



ヴェバルが
美しいと
言ってくれた
この足で…

今から存分に
楽しませてやろう

きゅん



あ…

ん…



アスラン…



アスラン…



して
いて
る



とっても
可愛いよ



アスラン、アスラン、アスラン



ぬ、…

アスラン…





ニ
ニ
ニ





この海の
なかの方が
もっと綺麗に
聞こえると
思うから



アスランの歌：
また聞きたいな

地上で披露した
もののことか？

うん



同胞達よ
我らの詠唱
刮目せよ

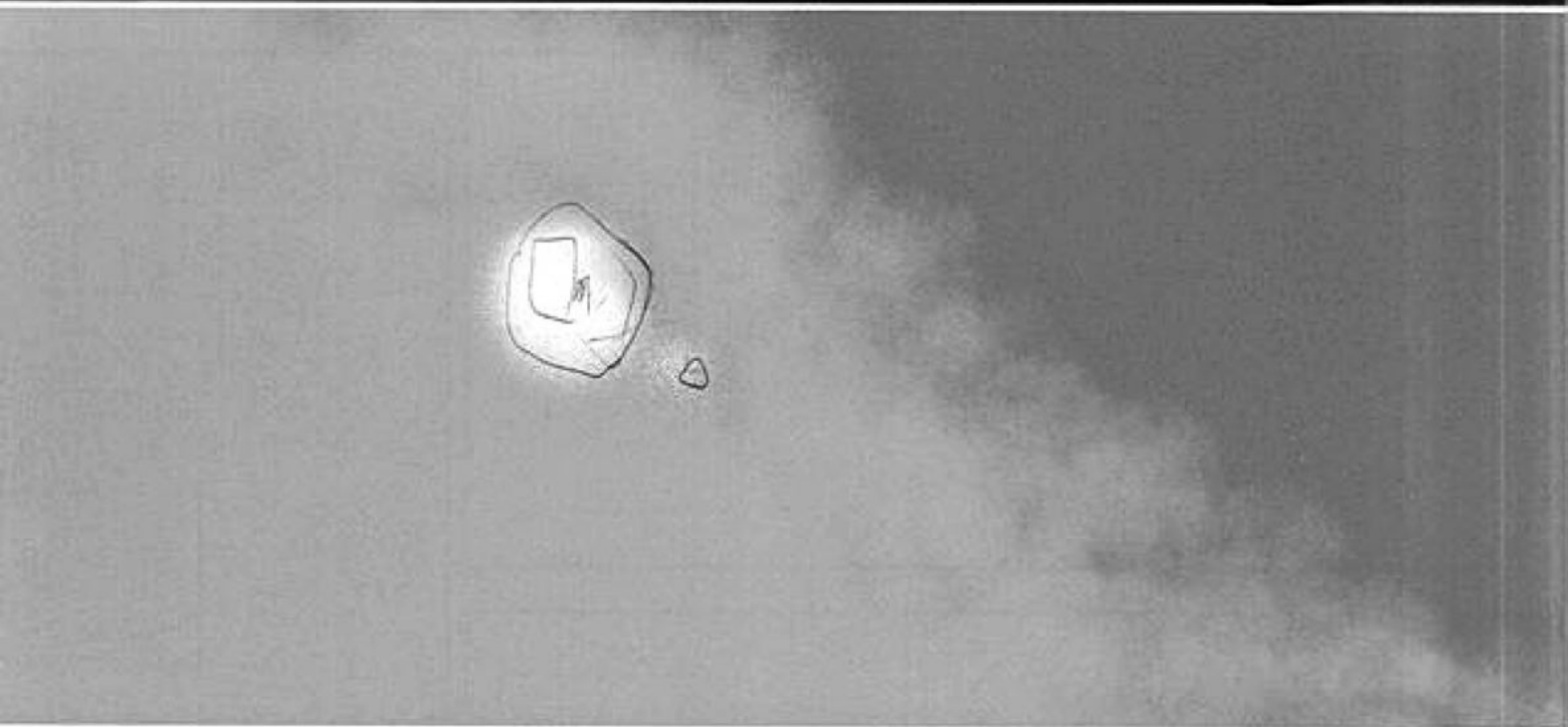


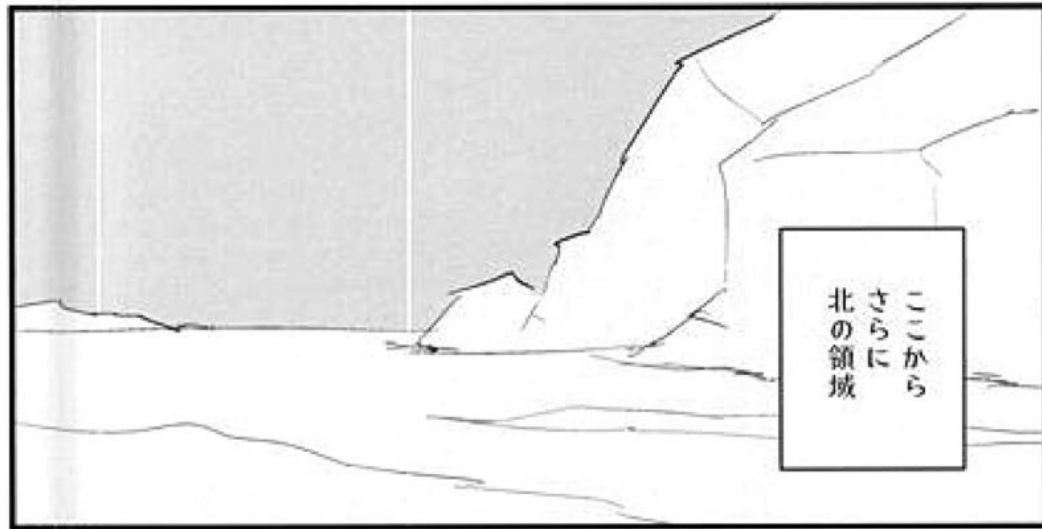
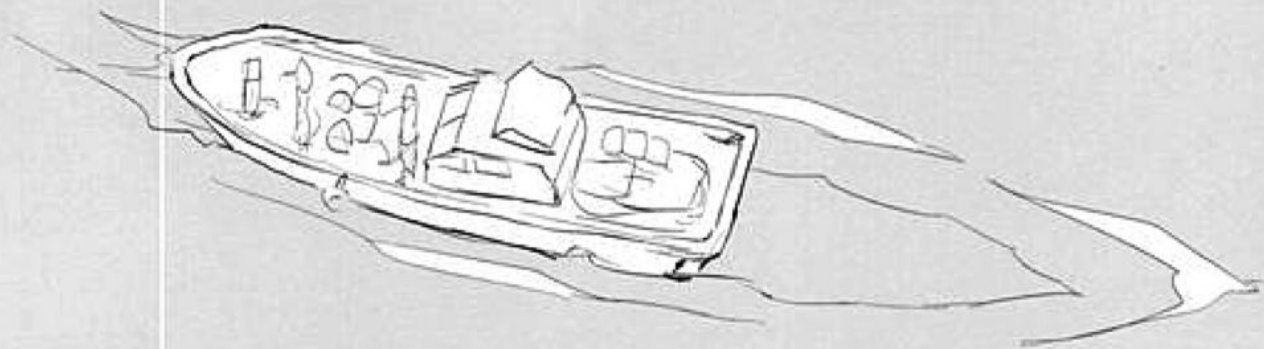
：ヴェバルも
詠唱の経験が
あったのでは
なかったか？

我と共に
この広大なる海に
響き渡らせん



ああ

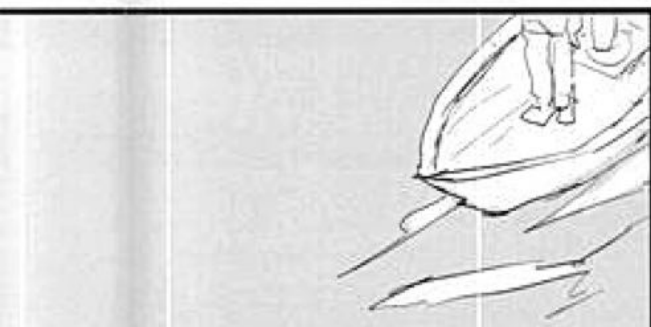




ここから
さらに
北の領域



タコ壺漁は
今日も順調



そこは
最近常に
波が荒く

けれども
以前と比べ

ある日
たまたま
波が穏やか
だった日に
船を
出したところ

近づくことが
できない状態でした

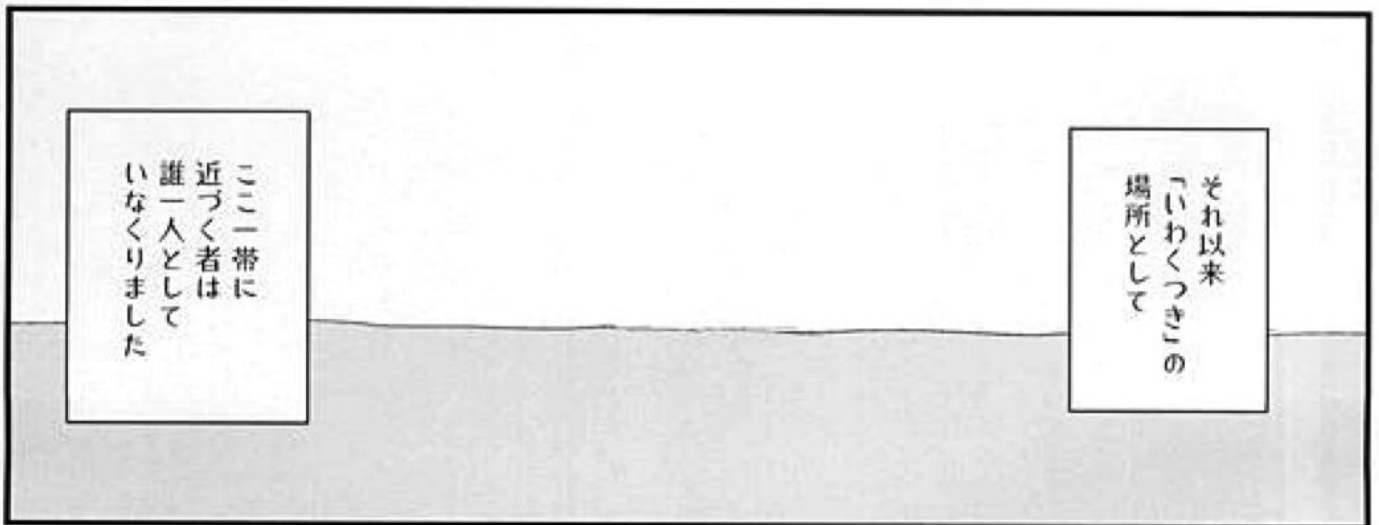
ひとつだけ
変わったことが
ありました



みんな
気味悪がり

人など
いるはずのない
深い深い
海の底から

かすかに
声の様なものが
聞こえてきて



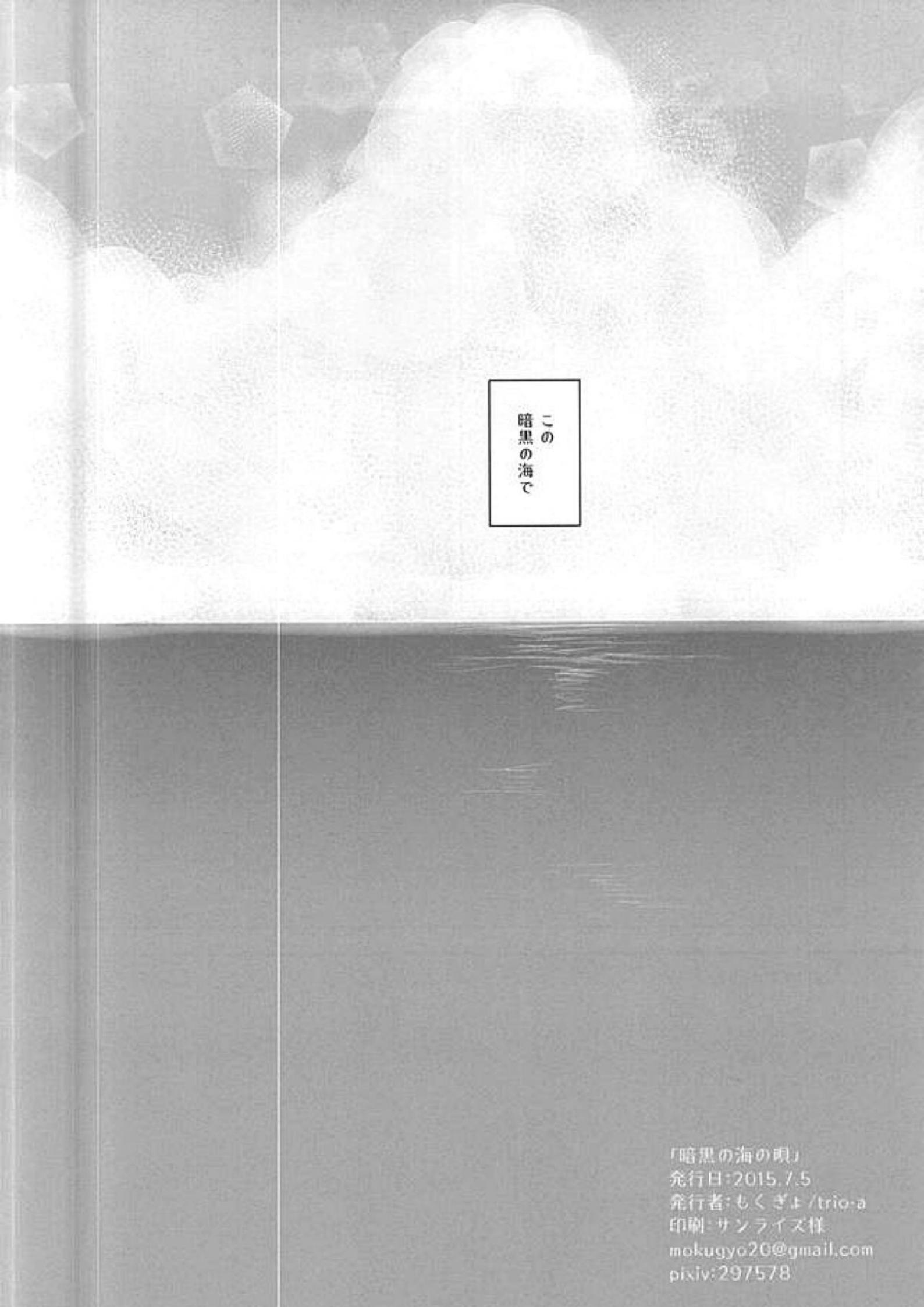
この一帯に
近づく者は
誰一人として
いなくりました

それ以来
「いわくつき」の
場所として




たとえ地上に
届かなくとも

彼らは
歌い続ける
のでしょう



この
暗黒の海で

「暗黒の海の唄」
発行日:2015.7.5
発行者:もくぎょ/trio-a
印刷:サンライズ様
mokugyo20@gmail.com
pixiv:297578



THE IDOLM@STER SIDE M FANBOOK #2
KAMIYA * ASSELIN

2015.7.5
TRIO-A